



4

CHAPTER

Smart Call Home の設定

この章では、デバイス上で Smart Call Home 機能を設定する方法について説明します。

ここでは、次の内容を説明します。

- [Call Home の概要 \(p.4-2\)](#)
- [Call Home のライセンス要件 \(p.4-8\)](#)
- [Call Home の前提条件 \(p.4-8\)](#)
- [設定時の注意事項および制約事項 \(p.4-8\)](#)
- [Call Home の設定 \(p.4-9\)](#)
- [Call Home の設定確認 \(p.4-21\)](#)
- [Call Home の設定例 \(p.4-22\)](#)
- [デフォルト設定 \(p.4-22\)](#)
- [その他の関連資料 \(p.4-23\)](#)

Call Home の概要

Call Home は重要なシステムイベントを E メールで通知します。Cisco NX-OS は豊富なメッセージフォーマットを提供するので、ポケットベルサービス、標準 E メール、または XML ベースの自動解析アプリケーションとの最適な互換性が得られます。この機能を使用すると、ネットワーク サポートエンジニアにポケットベルで連絡したり、NOC (ネットワーク オペレーティングセンター) に E メールを送信したり、Cisco Smart Call Home サービスを使用して TAC でケースを自動作成したりできます。

ここでは、次の内容について説明します。

- Call Home の概要 (p.4-2)
- 宛先プロファイル (p.4-3)
- Call Home のアラート グループ (p.4-3)
- Call Home のメッセージ レベル (p.4-6)
- Smart Call Home の利用方法 (p.4-6)
- ハイ アベイラビリティ (p.4-7)
- ハイ アベイラビリティ (p.4-7)
- 仮想化サポート (p.4-7)

Call Home の概要

Call Home を使用すると、デバイスで重要なイベントが発生したときに、外部エンティティに通知できます。Call Home は宛先プロファイル (『[宛先プロファイル](#)』 [p.4-3] を参照) で設定した複数の受信先にアラートを配信します。

Call Home にはスイッチ上で定義済みの固定アラート セットが組み込まれています (『[イベント トリガー](#)』 [p.4-23] を参照)。Cisco NX-OS はこれらのアラートをアラート グループに分け、アラート グループ内のアラートが発生したときに実行する CLI コマンドを割り当てます。Cisco NX-OS は、送信する Call Home メッセージにコマンド出力を組み込みます。アラートの一覧およびアラート開始時に送信される定義済み CLI コマンド セットについては、『[Call Home のアラート グループ](#)』 (p.4-3) を参照してください。

Call Home 機能がもたらす利点は、次のとおりです。

- 関連 CLI コマンドの自動実行およびコマンド出力の添付
- 下記のとおり、複数のメッセージ フォーマット オプション
 - Short Text — ポケットベルまたは印刷レポート向き。
 - Full Text — 目視に適した完全なフォーマットのメッセージ情報。
 - XML — XML (Extensible Markup Language) および AML (Adaptive Messaging Language) XSD (XML Schema Definition) を使用する、調和の取れた判読可能なフォーマット。AML XSD は Cisco.com の Web サイト (<http://www.cisco.com/>) で公開されています。XML フォーマットを使用すると、TAC とのコミュニケーションが可能です。
- 同時に使用する複数のメッセージ宛先。宛先プロファイルごとに、最大 50 の E メール宛先アドレスを設定できます。

宛先プロファイル

宛先プロファイルには、次の情報を指定します。

- 1つまたは複数のアラートグループ — アラートが発生した場合に、特定の Call Home メッセージを開始するアラートグループ。
- 1つまたは複数の E メール宛先 — この宛先プロファイルに割り当てられたアラートグループが生成した Call Home メッセージの受信先リスト。
- メッセージフォーマット — Call Home メッセージのフォーマット（ショートテキスト、フルテキスト、または XML）。
- メッセージの重大度 — Cisco NX-OS が宛先プロファイルに指定されたすべての E メールアドレスに対して Call Home メッセージを生成する前に、アラートが満たしていないなければならない Call Home の重大度。Call Home の重大度の詳細については、「[Call Home のメッセージレベル](#)」(p.4-6) を参照してください。アラートの Call Home 重大度が宛先プロファイルに設定されたメッセージの重大度に満たない場合、Cisco NX-OS はアラートを生成しません。

毎日、毎週、または毎月の形で、定期的にメッセージを送信するインベントリアラートグループを使用することによって、定期的にインベントリアップデートメッセージが送信されるように、宛先プロファイルを設定することもできます。

Cisco NX-OS は、次に示す定義済み宛先プロファイルを使用します。

- Cisco TAC-1 — XML メッセージフォーマットで Cisco-TAC アラートグループをサポートします。このプロファイルは `callhome@cisco.com` という E メールコンタクト、最大メッセージサイズ、およびメッセージ重大度 0 が設定済みです。このプロファイルのデフォルト情報はどちらも変更できません。
- full-text-destination — フルテキストのメッセージフォーマットをサポートします。
- short-text-destination — ショートテキストのメッセージフォーマットをサポートします。

メッセージフォーマットの詳細については、「[メッセージフォーマット](#)」(p.4-24) を参照してください。

Call Home のアラートグループ

アラートグループは、すべての Cisco NX-OS スイッチでサポートされる、Call Home アラートの定義済みサブセットです。アラートグループを使用すると、定義済みまたはカスタムの宛先プロファイルに送信する、一組の Call Home アラートを選択できます。Cisco NX-OS が宛先プロファイルに指定されている E メールの宛先に Call Home アラートを送信するのは、その Call Home アラートがその宛先プロファイルに関連付けられたアラートグループのいずれかに属していて、なおかつ Call Home のメッセージ重大度が宛先プロファイルで設定されているメッセージ重大度と同じかそれより上の場合だけです（「[Call Home のメッセージレベル](#)」[p.4-6] を参照）。

表 4-1 に、サポートされるアラートグループとともに、アラートグループに対して生成される Call Home メッセージに組み込まれるデフォルトの CLI コマンド出力を示します。

表 4-1 アラート グループおよび実行されるコマンド

アラート グループ	説明	実行されるコマンド
Cisco-TAC	Smart Call Home を宛先とする他のアラート グループからのすべてのクリティカルアラート	アラートが発生したアラート グループに基づいてコマンドが実行されます。
Configuration	コンフィギュレーション関連の定期的イベント	show module show running-configuration vdc-all all show startup-configuration vdc-all show vdc current show vdc membership show version
Diagnostic	診断機能によって生成されるイベント	show diagnostic result module all detail show diagnostic result module <i>number</i> detail show module show tech-support gold show tech-support platform show tech-support sysmgr show vdc current show vdc membership
EEM	EEM によって生成されるイベント	show diagnostic result module all detail show diagnostic result module <i>number</i> detail show module show tech-support gold show tech-support platform show tech-support sysmgr show vdc current show vdc membership
Environmental	電源、ファン、および温度アラームなどの環境感知コンポーネントに関するイベント	show environment show logging last 200 show module show vdc current show vdc membership show version
Inventory	装置のコールド ブートのたびに、または FRU (現場交換可能ユニット) の着脱時に提示されるインベントリステータス。このアラートは非クリティカルイベントとみなされ、情報はステータスおよび資格目的で使用されます。	show inventory show module show system uptime show sprom all show vdc current show vdc membership show version
License	ライセンスおよびライセンス違反に関するイベント	show license usage show logging last 200 show tech-support ethpm show vdc current show vdc membership

表 4-1 アラート グループおよび実行されるコマンド (続き)

アラート グループ	説明	実行されるコマンド
Linemode hardware	標準またはインテリジェント スイッチング モジュール関連のイベント	show diagnostic result module all detail show diagnostic result module <i>number</i> detail show module show tech-support gold show tech-support platform show tech-support sysmgr show vdc current show vdc membership
Supervisor hardware	スーパーバイザ モジュール関連のイベント	show diagnostic result module all detail show diagnostic result module <i>number</i> detail show module show tech-support gold show tech-support platform show tech-support sysmgr show vdc current show vdc membership
Syslog port group	syslog PORT ファシリティによって生成されるイベント	show license usage show logging last 200 show tech-support ethpm show vdc current show vdc membership
System	装置の動作に重要なソフトウェア システムの障害によって生成されるイベント	show diagnostic result module all detail show diagnostic result module <i>number</i> detail show module show tech-support gold show tech-support platform show tech-support sysmgr show vdc current show vdc membership
Test	ユーザが生成するテスト メッセージ	show module show vdc current show vdc membership show version

Call Home は、syslog 重大度を syslog ポート グループ メッセージに対応する Call Home の重大度にマッピングします (『Call Home のメッセージ レベル』 [p.4-6] を参照)。

定義済みのアラート グループをカスタマイズすると、特定のイベント発生時に他の CLI **show** コマンドを実行し、その **show** コマンドの出力を Call Home メッセージで送信できます。

show コマンドを追加できるのは、フルテキストおよび XML の宛先プロファイルだけです。ショートテキストの宛先プロファイルでは、使用できるテキストが 128 バイトだけなので、**show** コマンドの追加はサポートされません。

Call Home のメッセージ レベル

Call Home を使用すると、緊急度に基づいてメッセージをフィルタリングできます。宛先プロファイル（定義済みおよびユーザ定義）ごとに Call Home メッセージ レベルのしきい値と関連付けることができます。Cisco NX-OS は宛先プロファイルに対して、このしきい値に満たない Call Home メッセージは生成しません。Call Home のメッセージ レベル範囲は 0（最低の緊急度）～9（最高の緊急度）です。デフォルトは 0（Cisco NX-OS はすべてのメッセージを送信）です。

syslog アラート グループに送信される Call Home メッセージは、syslog 重大度が Call Home メッセージ レベルにマッピングされています。



(注)

Call Home がメッセージ テキストの syslog メッセージ レベルを変更することはありません。Call Home のログで syslog メッセージがどのように示されるかについては、『Cisco NX-OS System Messages Guide』を参照してください。

表 4-2 に、各 Call Home メッセージ レベルのキーワードと syslog ポート アラート グループの対応する syslog レベルを示します。

表 4-2 重大度と syslog レベルのマッピング

Call Home のレベル	キーワード	syslog のレベル	説明
9	Catastrophic	該当なし	ネットワーク全体の重大な障害
8	Disaster	該当なし	ネットワークに重大な影響
7	Fatal	緊急 (0)	システム使用不可
6	Critical	アラート (1)	即時対応が必要であることを示すクリティカル条件
5	Major	クリティカル (2)	メジャー条件
4	Minor	エラー (3)	マイナー条件
3	Warning	警告 (4)	警告条件
2	Notification	通知 (5)	基本的な通知および情報メッセージ通常、単独での重要性は薄い。
1	Normal	情報 (6)	正常な状態に戻ったことを伝える正常なイベント
0	Debugging	デバッグ (7)	デバッグ メッセージ

Smart Call Home の利用方法

シスコシステムズと直接サービス契約を結んでいる場合は、デバイスを Smart Call Home サービスに登録できます。Smart Call Home は、デバイスから送られた Call Home メッセージを分析し、背景説明と推奨処置を提供することによって、システムの問題を迅速に解決できるようにします。既知の問題として特定できた場合、特にオンライン診断障害については、TAC に Automatic Service Request が作成されます。

Smart Call Home が提供する機能は、次のとおりです。

- 繙続的なデバイス ヘルス モニタリングおよびリアルタイム診断アラート。
- デバイスから送られた Call Home メッセージの分析。必要に応じて Automatic Service Request が作成され、詳細な診断情報を含め、適切な TAC チームにルーティングされて、問題解決の高速化が実現します。
- デバイスから直接、またはダウンロード可能な TG (トランSPORT ゲートウェイ) 集約ポイントを通じて行われるセキュア メッセージ トランSPORT。TG 集約ポイントを使用できるのは、複数のデバイスにサポートが必要な場合、またはセキュリティ要件によって、デバイスをインターネットに直接接続できない場合です。
- あらゆる Call Home デバイスの Call Home メッセージおよび推奨事項、コンポーネント情報、設定情報への Web アクセス。関連する現場の注意事項、セキュリティ勧告、および廃止情報にアクセスできます。

登録には次の情報が必要です。

- 使用 switch の SMARTnet 契約番号
- E メール アドレス
- Cisco.com の ID

Smart Call Home の詳細については、次の URL にアクセスして Smart Call Home のページを参照してください。

<http://www.cisco.com/go/smartcall/>

ハイ アベイラビリティ

Cisco NX-OS は、Call Home のステートレス リスタートをサポートします。リブートまたはスーパーバイザ スイッチオーバーのあとに、Cisco NX-OS は実行コンフィギュレーションを適用します。

仮想化サポート

Cisco NX-OS は、VDC (Virtual Device Context; 仮想デバイス コンテキスト) ごとに Call Home インスタンスを 1 つずつサポートします。Smart Call Home では、最初に登録された VDC のコンタクト情報を物理デバイス上のすべての VDC の管理者コンタクトとして使用します。たとえば、Smart Call Home でデフォルト VDC のコンタクト情報が使用されるようにするには、その VDC を使用して登録する必要があります。この情報は次の URL から、Smart Call Home の Web サイトでアップデートできます。

<http://www.cisco.com/go/smartcall/>

Smart Call Home は他のすべての VDC のコンタクトを、物理デバイスのすべての Call Home データを参照できるが、管理者として動作することはできないユーザとして登録します。すべての登録ユーザおよび登録管理者は、物理デバイス上のすべての VDC からすべての Call Home 通知を受け取ります。

デフォルトでは、Cisco NX-OS はデフォルトの VDC が使用されるようにします。『Cisco NX-OS Virtual Device Context Configuration Guide』を参照してください。

Call Home は VRF (Virtual Routing and Forwarding) を認識します。特定の VRF を使用して Call Home SMTP サーバに接続するように Call Home を設定できます。

Call Home のライセンス要件

次の表に、この機能のライセンス要件を示します。

製品	ライセンス要件
NX-OS	Call Home の使用にライセンスは不要です。ライセンス パッケージに含まれていない機能は、Cisco NX-OS システム イメージにバンドルされて提供されます。追加料金は発生しません。NX-OS ライセンス方式の詳細については、『Cisco NX-OS Licensing Guide』を参照してください。

Call Home の前提条件

Call Home の前提条件は、次のとおりです。

- E メール サーバを設定する必要があります。
- Call Home をイネーブルにする前に、コンタクト名（SNMP サーバのコンタクト）、電話番号、および住所情報を設定する必要があります。受信メッセージの発行元を特定するために、この手順が必要です。
- スイッチから E メール サーバに IP で接続できなければなりません。
- Smart Call Home を使用する場合は、設定するデバイスに有効なサービス契約が必要です。
- VDC を設定する場合は、Advanced Services ライセンスをインストールし、所定の VDC を開始してください（『Cisco NX-OS Virtual Device Context Configuration Guide』を参照）。このライセンスは Call Home ではなく、VDC のためだけに必要です。
- VDC を設定する場合は、デフォルトの VDC からデバイスを登録する必要があります。

設定時の注意事項および制約事項

Call Home に関する設定時の注意事項および制約事項は、次のとおりです。

- IP 接続機能がない場合、または宛先プロファイルに対する VRF のインターフェイスが停止している場合、Cisco NX-OS は Call Home メッセージを送信できません。
- あらゆる SMTP サーバで動作します。

Call Home の設定

ここでは、次の内容について説明します。

- Call Home 設定時の注意事項 (p.4-9)
- コンタクト情報の設定 (p.4-10)
- 宛先プロファイルの作成 (p.4-12)
- 宛先プロファイルの変更 (p.4-13)
- アラート グループと宛先プロファイルの関連付け (p.4-15)
- アラート グループへの show コマンドの追加 (p.4-16)
- E メールの設定 (p.4-17)
- 定期的なインベントリ通知の設定 (p.4-19)
- 重複メッセージ スロットリングのディセーブル化 (p.4-20)
- Call Home のイネーブルまたはディセーブル (p.4-20)
- Call Home 通信のテスト (p.4-21)
- Call Home 通信のテスト (p.4-21)



(注)

Cisco IOS CLI の詳しい知識がある場合は、この機能で使用する Cisco NX-OS コマンドが、よく使用される Cisco IOS コマンドとは異なる可能性があることに注意してください。

Call Home 設定時の注意事項

Call Home を設定する手順は、次のとおりです。

ステップ 1 コンタクト情報を割り当てます。

ステップ 2 宛先プロファイルを設定します。

ステップ 3 各プロファイルに 1 つまたは複数のアラート グループを関連付けます。

ステップ 4 (任意) アラーと グループに他の **show** コマンドを追加します。

ステップ 5 トランスポート オプションを設定します。

ステップ 6 Call Home をイネーブルにします。

ステップ 7 (任意) Call Home メッセージをテストします。

コンタクト情報の設定

Call Home 用に E メール、電話、住所情報を設定する必要があります。任意でコンタクト ID、カスタマー ID、サイト ID、およびスイッチプライオリティ情報を設定できます。

操作の前に

正しい VDC を使用していることを確認します（または、**switchto vdc** コマンドを使用します）。

手順概要

1. **config t**
2. **snmp-server contact sys-contact**
3. **callhome**
4. **email-contact email-address**
5. **phone-contact international-phone-number**
6. **streetaddress address**
7. **contract-id contract-number**
8. **customer-id customer-number**
9. **site-id site-number**
10. **switch-priority numbers**
11. **show callhome**
12. **copy running-config startup-config**

詳細な手順

	コマンド	目的
ステップ 1	config t	コンフィギュレーションモードを開始します。
	例： switch# config t switch(config)#	
ステップ 2	snmp-server contact sys-contact	SNMP sysContact を設定します。
	例： switch(config)# snmp-server contact personname@companyname.com	
ステップ 3	callhome	callhome コンフィギュレーションモードを開始します。
	例： switch(config)# callhome switch(config-callhome) #	
ステップ 4	email-contact email-address	デバイスの主要責任者の E メールアドレスを設定します。E メールアドレスのフォーマットで最大 255 文字の英数字を指定できます。
	例： switch(config-callhome) # email-contact admin@Mycompany.com	<p> (注) 任意の有効な E メールアドレスを使用できます。スペースは使用できません。</p>

ステップ	コマンド	目的
5	phone-contact	デバイスの主要責任者の電話番号を国際電話番号のフォーマットで設定します。国際電話のフォーマットで最大 17 文字の英数字を指定できます。
	<i>international-phone-number</i>	
	例 :	
	switch(config-callhome) # phone-contact	
	+1-800-123-4567	

宛先プロファイルの作成

ユーザ定義の宛先プロファイルを作成し、その新しい宛先プロファイル用のメッセージフォーマットを設定できます。

操作の前に

正しいVDCを使用していることを確認します（または、**switchto vdc** コマンドを使用します）。

手順概要

1. **config t**
2. **callhome**
3. **destination-profile name**
4. **destination-profile name format {XML | full-txt | short-txt}**
5. **show callhome destination-profile [profile name]**
6. **copy running-config startup-config**

詳細な手順

	コマンド	目的
ステップ 1	config t	コンフィギュレーションモードを開始します。
	例： switch# config t switch(config)#	
ステップ 2	callhome	callhome コンフィギュレーションモードを開始します。
	例： switch(config)# callhome switch(config-callhome)#	
ステップ 3	destination-profile name	新しい宛先プロファイルを作成します。名前には最大 31 の英数字を使用できます。
	例： switch(config-callhome)# destination-profile Noc101	
ステップ 4	destination-profile name format {XML full-txt short-txt}	プロファイルのメッセージフォーマットを設定します。名前には最大 31 の英数字を使用できます。
	例： switch(config-callhome)# destination-profile Noc101 format full-txt	
ステップ 5	show callhome destination-profile [profile name]	(任意) 1つまたは複数の宛先プロファイルに関する情報を表示します。
	例： switch(config-callhome)# show callhome destination-profile profile Noc101	
ステップ 6	copy running-config startup-config	(任意) この設定変更を保存します。
	例： switch(config)# copy running-config startup-config	

Call Home の宛先プロファイルを作成する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# destination-profile Noc101
switch(config-callhome)# destination-profile Noc101 format full-text
```

宛先プロファイルの変更

定義済みの宛先プロファイルまたはユーザ定義の宛先プロファイルでは、次のアトリビュートを変更できます。

- 宛先アドレス — アラートの送信先になる、トランスポート メカニズムに適した実際のアドレス
- メッセージ フォーマット — アラートの送信に使用するメッセージ フォーマット (フルテキスト、ショートテキスト、または XML)。
- メッセージ レベル — この宛先プロファイルに対応する、Call Home メッセージの重大度。
- メッセージ サイズ — この宛先プロファイルの E メール アドレスに送信できる Call Home メッセージの長さ。

宛先プロファイルに対応するアラート グループの設定については、「アラート グループと宛先プロファイルの関連付け」(p.4-15) を参照してください。



Cisco TAC-1 宛先プロファイルは、変更も削除もできません。

操作の前に

正しい VDC を使用していることを確認します (または、**switchto vdc** コマンドを使用します)。

手順概要

1. **config t**
2. **callhome**
3. **destination profile {name | CiscoTAC-1 | full-txt-destination | short-txt-destination} email-address address**
4. **destination profile {name | CiscoTAC-1 | full-txt-destination | short-txt-destination} message-level number**
5. **destination profile {name | CiscoTAC-1 | full-txt-destination | short-txt-destination} message-size number**
6. **show call-home destination-profile [profile name]**
7. **copy running-config startup-config**

詳細な手順

	コマンド	目的
ステップ 1	config t	コンフィギュレーションモードを開始します。
	例： switch# config t switch(config)#	
ステップ 2	callhome	callhome コンフィギュレーションモードを開始します。
	例： switch(config)# callhome switch(config-callhome)#	
ステップ 3	destination-profile {name CiscoTAC-1 full-txt-destination short-txt-destination} email-addr address	ユーザ定義または定義済み宛先プロファイル用の E メールアドレスを設定します。
	例： switch(config-callhome)# destination-profile full-txt-destination email-addr person@place.com	 ヒント 1 つの宛先プロファイルで最大 50 の E メールアドレスを設定できます。
ステップ 4	destination-profile {name CiscoTAC-1 full-txt-destination short-txt-destination} message-level number	この宛先プロファイルに対応する Call Home メッセージの重大度を設定します。Cisco NX-OS がこのプロファイルの宛先に送信するのは、Call Home の重大度が同じかそれ以上のアラートだけです。値の範囲は 0 ~ 9 です。9 が最高の重大度です。
	例： switch(config-callhome)# destination-profile full-txt-destination message-level 5	
ステップ 5	destination-profile {name CiscoTAC-1 full-txt-destination short-txt-destination} message-size number	この宛先プロファイルの最大メッセージサイズを設定します。値の範囲は 0 ~ 5000000 です。デフォルト値は 2500000 です。
	例： switch(config-callhome)# destination-profile full-txt-destination message-size 100000	
ステップ 6	show callhome destination-profile [profile name]	(任意) 1 つまたは複数の宛先プロファイルに関する情報を表示します。
	例： switch(config-callhome)# show callhome destination-profile profile full-text-destination	
ステップ 7	copy running-config startup-config	(任意) この設定変更を保存します。
	例： switch(config)# copy running-config startup-config	

Call Home の宛先プロファイルを変更する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# destination-profile full-text-destination email-addr
person@place.com
switch(config-callhome)# destination-profile full-text-destination message-level 5
switch(config-callhome)# destination-profile full-text-destination message-size 10000
```

アラート グループと宛先プロファイルの関連付け

1 つの宛先プロファイルに 1 つまたは複数のアラート グループを関連付けることができます。

操作の前に

正しい VDC を使用していることを確認します（または、**switchto vdc** コマンドを使用します）。

手順概要

1. **config t**
2. **callhome**
3. **destination profile *name* alert-group {All | Cisco-TAC | Configuration | Diagnostic | EEM | Environmental | Inventory | License | Linemode-Hardware | Supervisor-Hardware | Syslog-group-port | System | Test}**
4. **show callhome destination-profile [profile *name*]**
5. **copy running-config startup-config**

詳細な手順

	コマンド	目的
ステップ 1	config t	コンフィギュレーション モードを開始します。
	例 : switch# config t switch(config)#	
ステップ 2	callhome	callhome コンフィギュレーション モードを開始します。
	例 : switch(config)# callhome switch(config-callhome)#	
ステップ 3	destination-profile <i>name</i> alert-group {All Cisco-TAC Configuration Diagnostic EEM Environmental Inventory License Linemode-Hardware Supervisor-Hardware Syslog-group-port System Test}	この宛先プロファイルにアラート グループを関連付けます。すべてのアラート グループを宛先プロファイルに関連付ける場合は、All キーワードを使用します。
	例 : switch(config-callhome)# destination-profile Noc101 alert-group All	
ステップ 4	show callhome destination-profile [profile <i>name</i>]	(任意) 1 つまたは複数の宛先プロファイルに関する情報を表示します。
	例 : switch(config-callhome)# show callhome destination-profile profile Noc101	
ステップ 5	copy running-config startup-config	(任意) この設定変更を保存します。
	例 : switch(config)# copy running-config startup-config	

■ Call Home の設定

宛先プロファイル Noc101 にすべてのアラート グループを関連付ける例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# destination-profile Noc101 alert-group All
```

アラート グループへの show コマンドの追加

1 つのアラート グループにユーザ定義の CLI **show** コマンドを 5 つまで割り当てることができます。



(注) Cisco TAC-1 宛先プロファイルにユーザ定義の CLI **show** コマンドを追加することはできません。

操作の前に

正しい VDC を使用していることを確認します（または、**switchto vdc** コマンドを使用します）。

手順概要

1. **config t**
2. **callhome**
3. **alert-group {Configuration | Diagnostic | EEM | Environmental | Inventory | License | Linemode-Hardware | Supervisor-Hardware | Syslog-group-port | System | Test} user-def-cmd show-cmd**
4. **show call-home user-def-cmds**
5. **copy running-config startup-config**

詳細な手順

	コマンド	目的
ステップ 1	config t	コンフィギュレーション モードを開始します。
	例 : switch# config t switch(config) #	
ステップ 2	callhome	callhome コンフィギュレーション モードを開始します。
	例 : switch(config)# callhome switch(config-callhome) #	
ステップ 3	alert-group {Configuration Diagnostic EEM Environmental Inventory License Linemode-Hardware Supervisor-Hardware Syslog-group-port System Test} user-def-cmd show-cmd	このアラート グループに対して送信されるあらゆる Call Home メッセージに、 show コマンド出力を追加します。 show コマンドは二重引用符で囲む必要があります。使用できるのは、有効な show コマンドだけです。
	例 : switch(config-callhome) # alert-group Configuration user-def-cmd "show ip routing"	

コマンド	目的
ステップ 4 <code>show callhome user-def-cmds</code> 例： <code>switch(config-callhome) # show callhome user-def-cmds</code>	(任意) アラート グループに追加されているユーザ定義のすべての <code>show</code> コマンドについて、情報を表示します。
ステップ 5 <code>copy running-config startup-config</code> 例： <code>switch(config) # copy running-config startup-config</code>	(任意) この設定変更を保存します。

Cisco-TAC アラート グループに `show ip routing` コマンドを追加する例を示します。

```
switch# config t
switch(config) # callhome
switch(config-callhome) # alert-group Configuration user-def-cmd "show ip routing"
```

E メールの設定

Call Home を機能させるには、SMTP サーバ アドレスを設定する必要があります。送信元および返信先 E メール アドレスも設定できます。

操作の前に

正しい VDC を使用していることを確認します（または、`switchto vdc` コマンドを使用します）。

手順概要

1. `config t`
2. `callhome`
3. `transport email smtp-server ip-address [port number] [use-vrf vrf-name]`
4. `transport email from email-address`
5. `transport email reply-to email-address`
6. `show callhome transport-email`
7. `copy running-config startup-config`

詳細な手順

	コマンド	目的
ステップ 1	config t 例： switch# config t switch(config)#	コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	callhome 例： switch(config)# callhome switch(config-callhome)#	callhome コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	transport email smtp-server ip-address [port number] [use-vrf vrf-name] 例： switch(config-callhome)# transport email smtp-server 192.0.2.1 use-vrf Red	DNS (ドメインネームサーバ)名、IPv4 アドレス、または IPv6 アドレスのいずれかで SMTP サーバを設定します。さらに、任意でポート番号を設定します。ポート範囲は 1 ~ 65535 であり、デフォルトのポート番号は 25 です。 さらに任意で、この SMTP サーバとの通信時に使用する VRF を設定します。
ステップ 4	transport email from email-address 例： switch(config-callhome)# transport email from person@company.com	(任意) Call Home メッセージ用の email from (E メール送信元) フィールドを設定します。
ステップ 5	transport email reply-to email-address 例： switch(config-callhome)# transport email reply-to person@company.com	(任意) Call Home メッセージ用の email reply-to (E メール返信先) フィールドを設定します。
ステップ 6	show callhome transport-email 例： switch(config-callhome)# show callhome transport-email	(任意) Call Home の E メール設定に関する情報を表示します。
ステップ 7	copy running-config startup-config 例： switch(config)# copy running-config startup-config	(任意) この設定変更を保存します。

Call Home メッセージの E メールオプションを設定する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# transport email smtp-server 192.0.2.10 use-vrf Red
switch(config-callhome)# transport email from person@company.com
switch(config-callhome)# transport email reply-to person@company.com
```

定期的なインベントリ通知の設定

デバイス上で現在インペブルであり、動作しているすべてのソフトウェア サービスのインベントリとともに、ハードウェア インベントリ情報を示すメッセージを定期的に送信するように、スイッチを設定できます。Cisco NX-OS は 2 種類の Call Home 通知を生成します。定期的コンフィギュレーション メッセージおよび定期的インベントリ メッセージです。

操作の前に

正しい VDC を使用していることを確認します（または、**switchto vdc** コマンドを使用します）。

手順概要

1. **config t**
2. **callhome**
3. **periodic-inventory notification [interval days | timeofday time]**
4. **show callhome**
5. **copy running-config startup-config**

詳細な手順

	コマンド	目的
ステップ 1	config t 例： switch# config t switch(config)#	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	callhome 例： switch(config)# callhome switch(config-callhome)#	callhome コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	periodic-inventory notification [interval days] [timeofday time] 例： switch(config-callhome)# periodic-inventory notification interval 20	定期的インベントリ メッセージを設定します。インターバルの範囲は 1 ~ 30 日です。デフォルトは 7 で、ToD 値は HH:MM 形式です。
ステップ 4	show callhome 例： switch(config-callhome)# show callhome	(任意) Call Home に関する情報を表示します。
ステップ 5	copy running-config startup-config 例： switch(config)# copy running-config startup-config	(任意) この設定変更を保存します。

定期的インベントリ メッセージが 20 日おきに生成されるように設定する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# periodic-inventory notification interval 20
```

重複メッセージスロットリングのディセーブル化

同じイベントについて受け取る重複メッセージの数を制限できます。デフォルトでは、Cisco NX-OS は同じイベントについて受け取る重複メッセージの数を制限します。2 時間以内に送信された重複メッセージの数が 30 を超えると、Cisco NX-OS はそのアラート タイプについて、それ以上のメッセージをディセーブルにします。

重複メッセージスロットリングをディセーブルにするには、Call Home コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
<code>no duplicate-message throttle</code> 例： <code>switch(config-callhome)# no duplicate-message throttle</code>	Call Home の重複メッセージスロットリングをディセーブルにします。デフォルトではイネーブルにされています。

Call Home のイネーブルまたはディセーブル

コンタクト情報を設定すると、Call Home 機能をイネーブルにできます。

Call Home をイネーブルにするには、Call Home コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
<code>enable</code> 例： <code>switch(config-callhome)# enable</code>	Call Home をイネーブルにします。デフォルトではディセーブルです。

Call Home をディセーブルにするには、Call Home コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
<code>no enable</code> 例： <code>switch(config-callhome)# no enable</code>	Call Home をディセーブルにします。デフォルトではディセーブルです。

Call Home 通信のテスト

Call Home 通信をテストするために、テスト メッセージを作成できます。

テスト用の Call Home メッセージを作成するには、任意のモードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
callhome send [configuration diagnostic inventory] 例： switch(config-callhome)# callhome send diagnostic	設定されているすべての宛先に、指定の Call Home テスト メッセージを送信します。
callhome test 例： switch(config-callhome)# callhome test	設定されているすべての宛先に、テスト メッセージを送信します。

Call Home の設定確認

Call Home の設定情報を表示するには、次の作業のいずれかを行います。

コマンド	目的
show callhome	Call Home のステータスを表示します。
show callhome destination-profile name	1 つまたは複数の Call Home 宛先プロファイルを表示します。
show callhome status	Call Home のステータスを表示します。
show callhome transport-email	Call Home の E メール設定を表示します。
show callhome user-def-cmds	アラート グループに追加されている CLI コマンドを表示します。
show running-config callhome [all]	Call Home の実行コンフィギュレーションを表示します。
show startup-config callhome [all]	Call Home のスタートアップ コンフィギュレーションを表示します。
show tech-support callhome	Call Home に関するテクニカル サポート出力を表示します。

Call Home の設定例

Noc101 という宛先プロファイルを作成し、そのプロファイルに Cisco-TAC アラート グループを関連付けて、コンタクト情報および E メール情報を設定する例を示します。

```
config t
  snmp-server contact person@company.com
  callhome
    email-contact admin@Mycompany.com
    phone-contact +1-800-123-4567
    street-address 123 Anystreet st. Anytown, AnyWhere
    destination-profile Noc101
    destination-profile Noc101 full-text
    destination-profile full-text-destination email-addr person@company.com
    destination-profile full-text-destination message-level 5
    destination-profile Noc101 alert-group Configuration
    alert-group Configuration user-def-cmd "show ip routing"
    transport email smtp-server 192.0.2.10 use-vrf Red
  enable
```

デフォルト設定

表 4-3 に、Call Home パラメータのデフォルト設定を示します。

表 4-3 デフォルトの Call Home パラメータ

パラメータ	デフォルト
フルテキスト フォーマットで送信するメッセージの宛先メッセージ サイズ	2500,000
XML フォーマットで送信するメッセージの宛先メッセージ サイズ	2500,000
ショートテキスト フォーマットで送信するメッセージの宛先メッセージ サイズ	4000
ポートを指定しなかった場合の SMTP サーバ ポート	25
プロファイルとアラート グループの関連付け	full-text-destination および short-text-destination プロファイルではすべて。CiscoTAC-1 宛先プロファイルでは cisco-tac アラート グループ
フォーマット タイプ	XML
Call Home のメッセージ レベル	0 (ゼロ)

その他の関連資料

Call Home の実装に関する詳細情報については、次の項を参照してください。

- イベント トリガー (p.4-23)
- メッセージ フォーマット (p.4-24)
- syslog アラート通知の例 (フルテキスト フォーマット) (p.4-28)
- syslog アラート通知の例 (XML フォーマット) (p.4-31)
- 関連資料 (p.4-35)
- 規格 (p.4-35)
- MIB (p.4-35)

イベント トリガー

表 4-4 に、イベント トリガーおよび対応する Call Home メッセージの重大度を示します。

表 4-4 イベント トリガー

アラート グループ	イベント名	説明	Call Home の重大度
Configuration	PERIODIC_CONFIGURATION	定期的コンフィギュレーションアップ デート メッセージ	2
Diagnostic	DIAGNOSTIC_MAJOR_ALERT	GOLD が生成したメジャー アラート	7
	DIAGNOSTIC_MINOR_ALERT	GOLD が生成したマイナー アラート	4
	DIAGNOSTIC_NORMAL_ALERT	Call Home が生成した通常の診断アラート	2
Environmental および CISCO_TAC	FAN_FAILURE	冷却ファンの故障	5
	POWER_SUPPLY_ALERT	電源モジュールに関する警告の発生	6
	POWER_SUPPLY_FAILURE	電源モジュールの故障	6
	POWER_SUPPLY_SHUTDOWN	電源モジュールのシャットダウン	6
	TEMPERATURE_ALARM	温度センサによる温度が動作しきい値を超えたという表示	6
Inventory および CISCO_TAC	COLD_BOOT	スイッチの起動およびリセットによる コールドブート シーケンス	2
	HARDWARE_INSERTION	シャーシへの新しいハードウェア コンポーネントの追加	2
	HARDWARE_REMOVAL	シャーシからのハードウェアの取り外し	2
	PERIODIC_INVENTORY	定期的インベントリ メッセージの作成	2
License	LICENSE_VIOLATION	使用中の機能にライセンスがなく、猶予期間を経てオフになった場合	6
Line module Hardware および CISCO_TAC	LINEmodule_FAILURE	モジュールの動作障害	7
Line module Hardware、Supervisor	BOOTFLASH_FAILURE	ブート コンパクト フラッシュ モジュール の故障	6
	EOBC_FAILURE	イーサネット帯域外チャネル通信の障害	6

表 4-4 イベントトリガー（続き）

アラート グループ	イベント名	説明	Call Home の重大度
Supervisor Hardware および CISCO_TAC	CMP_FAILURE	CMP モジュールの動作障害	5
	POWER_UP_DIAGNOSTICS_FAILURE	スーパーバイザの起動障害	7
	SUP_FAILURE	スーパーバイザ モジュールの動作障害	7
Syslog-group-port	PORT_FAILURE	ポート ファシリティに対応する syslog メッセージの生成	6
	SYSLOG_ALERT	syslog アラート メッセージの生成	5
System および CISCO_TAC	SW_CRASH	ステートレス リスタートによるソフト ウエア プロセス障害、すなわちサービス の停止	5
	SW_SYSTEM_INCONSISTENT	ソフトウェアまたはファイル システムにおける不整合の検出	5
Test および CISCO_TAC	TEST	ユーザが作成したテストの発生	2

メッセージ フォーマット

Call Home がサポートするメッセージ フォーマットは、次のとおりです。

- ショートテキスト メッセージ フォーマット
- すべてのフル テキストおよび XML メッセージに共通するフィールド
- 対応型または予防型イベント メッセージに挿入されるフィールド
- インベントリ イベント メッセージに挿入されるフィールド
- ユーザが作成したテスト メッセージに挿入されるフィールド

表 4-5 で、すべてのメッセージ タイプに共通するショート テキスト フォーマット オプションについて説明します。

表 4-5 ショート テキスト メッセージ フォーマット

データ項目	説明
Device identification	設定されているデバイス名
Date/time stamp	トリガー イベントのタイムスタンプ
Error isolation message	トリガー イベントの英語による簡単な説明
Alarm urgency level	システム メッセージに適用されるようなエラー レベル

表4-6 で、フルテキストまたはXMLに共通のイベントメッセージフォーマットについて説明します。

表4-6 すべてのフルテキストおよびXMLメッセージに共通するフィールド

データ項目 (プレーンテキスト およびXML)	説明 (プレーンテキストおよびXML)	XMLタグ (XMLのみ)
Time stamp	ISOの時刻表記で表した日付およびタイムスタンプ <i>YYYY-MM-DD HH:MM:SS GMT+HH:MM</i>	/aml/header/time
Message name	メッセージ名具体的なイベント名については表4-4を参照	/aml/header/name
Message type	reactive(対応型)、proactive(予防型)などのメッセージタイプの名前	/aml/header/type
Message group	syslogなど、アラートグループの名前	/aml/header/group
Severity level	メッセージの重大度(「Call Homeのメッセージレベル」[p.4-6]を参照)	/aml/header/level
Source ID	ルーティング製品タイプ。具体的にはCatalyst 6500	/aml/header/source
Device ID	メッセージを生成したエンドデバイスのUDI(固有デバイス識別情報)。メッセージがデバイス固有ではない場合は、このフィールドを空にしておきます。フォーマットは <i>type@Sid@serial</i> です。 <ul style="list-style-type: none"> <i>type</i>はバックプレーンIDPROMから取得した製品モデル番号です。 @は区切り文字です。 <i>Sid</i>はCで、シリアルIDをシャーシシリアル番号として特定します。 <i>serial</i>は、<i>Sid</i>フィールドで特定された番号です。 例: WS-C6509@C@12345678	/aml/header/deviceId
Customer ID	サポートサービスの契約情報またはその他のIDに任意で使用する、ユーザ側で設定可能なフィールド	/aml/header/customerID
Contract ID	サポートサービスの契約情報またはその他のIDに任意で使用する、ユーザ側で設定可能なフィールド	/aml/header/contractID
Site ID	シスコが指定したサイトIDまたはその他、代替サポートサービスで意味のあるデータに使用する、ユーザ側で設定可能なフィールド	/aml/header/siteId
Server ID	デバイスから発生するメッセージの場合、これはデバイスのUDIです。 フォーマットは <i>type@Sid@serial</i> です。 <ul style="list-style-type: none"> <i>type</i>はバックプレーンIDPROMから取得した製品モデル番号です。 @は区切り文字です。 <i>Sid</i>はCで、シリアルIDをシャーシシリアル番号として特定します。 <i>serial</i>は、<i>Sid</i>フィールドで特定された番号です。 例: WS-C6509@C@12345678	/aml/header/serverId
Message description	エラーを記述するショートテキスト	/aml/body/msgDesc

■ その他の関連資料

表 4-6 すべてのフルテキストおよび XML メッセージに共通するフィールド (続き)

データ項目 (プレーンテキスト および XML)	説明 (プレーンテキストおよび XML)	XML タグ (XML のみ)
Device name	イベントが発生したノード (デバイスのホスト名)	/aml/body/sysName
Contact name	イベントが発生したノードに関連する問題の連絡となる担当者名	/aml/body/sysContact
Contact e-mail	この装置の連絡先として指定された担当者の E メールアドレス	/aml/body/sysContactEmail
Contact phone number	この装置の連絡先として指定された担当者の電話番号	/aml/body/sysContactPhoneNumber
Street address	この装置に関連する RMA 部品の出荷先住所を任意で指定するフィールド	/aml/body/sysStreetAddress
Model name	デバイスのモデル名 (製品ファミリ名の一部としての特定モデル)	/aml/body/chassis/name
Serial number	装置のシャーシシリアル番号	/aml/body/chassis/serialNo
Chassis part number	シャーシ上部のアセンブリ番号	/aml/body/chassis/partNo

ここで、特定のアラート グループ メッセージに固有のフィールドが挿入されます。

このアラート グループに対して複数の CLI を実行する場合、次のフィールドは反復可能です。

Command output name	発行された CLI コマンドの正確な名前	/aml/attachments/attachment/name
Attachment type	特定のコマンド出力	/aml/attachments/attachment/type
MIME type	プレーンテキストまたは符号化タイプのどちらか。	/aml/attachments/attachment/mime
Command output text	自動的に実行されたコマンドの出力 (『Call Home のアラート グループ』 [p.4-3] を参照)	/aml/attachments/attachment/atdata

表 4-7 で、フルテキストまたは XML に対応する、対応型イベントメッセージフォーマットについて説明します。

表 4-7 対応型または予防型イベントメッセージに挿入されるフィールド

データ項目 (プレーンテキスト および XML)	説明 (プレーンテキストおよび XML)	XML タグ (XML のみ)
Chassis hardware version	シャーシのハードウェアバージョン	/aml/body/chassis/hwVersion
Supervisor module software version	上位レベルのソフトウェアバージョン	/aml/body/chassis/swVersion
Affected FRU name	イベントメッセージを生成している関連 FRU 名	/aml/body/fru/name
Affected FRU serial number	関連 FRU のシリアル番号	/aml/body/fru/serialNo
Affected FRU part number	関連 FRU の部品番号	/aml/body/fru/partNo
FRU slot	イベントメッセージを生成している FRU のスロット番号	/aml/body/fru/slot
FRU hardware version	関連 FRU のハードウェアバージョン	/aml/body/fru/hwVersion
FRU software version	関連 FRU 上で動作しているソフトウェアバージョン (複数可)	/aml/body/fru/swVersion

表 4-8 で、フルテキストまたは XML に対応する、インベントリ イベント メッセージ フォーマットについて説明します。

表 4-8 インベントリ イベント メッセージに挿入されるフィールド

データ項目 (プレーン テキスト および XML)	説明 (プレーン テキストおよび XML)	XML タグ (XML のみ)
Chassis hardware version	シャーシのハードウェア バージョン	/aml/body/chassis/hwVersion
Supervisor module software version	上位レベルのソフトウェア バージョン	/aml/body/chassis/swVersion
FRU name	イベント メッセージを生成している 関連 FRU 名	/aml/body/fru/name
FRU s/n	FRU のシリアル番号	/aml/body/fru/serialNo
FRU part number	FRU の部品番号	/aml/body/fru/partNo
FRU slot	FRU のスロット番号	/aml/body/fru/slot
FRU hardware version	FRU のハードウェア バージョン	/aml/body/fru/hwVersion
FRU software version	FRU 上で動作しているソフトウェア バージョン (複数可)	/aml/body/fru/swVersion

表 4-9 で、フルテキストまたは XML に対応する、ユーザ作成テスト メッセージのフォーマットについて説明します。

表 4-9 ユーザが作成したテスト メッセージに挿入されるフィールド

データ項目 (プレーン テキスト および XML)	説明 (プレーン テキストおよび XML)	XML タグ (XML のみ)
Process ID	固有のプロセス ID	/aml/body/process/id
Process state	プロセスの状態 (running [実行中]、halted [停止] など)	/aml/body/process/processState
Process exception	例外または原因コード	/aml/body/process/exception

syslog アラート通知の例（フル テキスト フォーマット）

フル テキスト フォーマットを使用した syslog port アラート グループ通知の例を示します。

```

Severity Level:5
Series:Nexus7000
Switch Priority:0
Device Id:N7K-C7010@C@TXX12345678
Server Id:N7K-C7010@C@TXX12345678
Time of Event:2008-01-17 16:31:33 GMT+0000 Message Name:
Message Type:syslog
System Name:dc3-test
Contact Name:Jay Tester
Contact Email:contact@example.com
Contact Phone:+91-80-1234-5678
Street Address:#1 Any Street
Event Description:SYSLOG_ALERT 2008 Jan 17 16:31:33 dc3-test %ETHPORT-2-IF_SEQ_ERROR:
Error (0x20) while communicating with component MTS_SAP_ELT
opcode:MTS_OPC_ETHPM_PORT_PHY_CLEANUP (for:RID_PORT: Ethernet3/1)

syslog_facility:ETHPORT
start chassis information:
Affected Chassis:N7K-C7010
Affected Chassis Serial Number:TXX12345678 Affected Chassis Hardware Version:0.405
Affected Chassis Software Version:4.0(1) Affected Chassis Part No:73-10900-04 end
chassis information:
start attachment
  name:show logging logfile | tail -n 200
  type:text
  data:
    2008 Jan 17 10:57:51 dc3-test %SYSLOG-1-SYSTEM_MSG : Logging logfile (messages)
cleared by user
    2008 Jan 17 10:57:53 dc3-test %VSHD-5-VSHD_SYSLOG_CONFIG_I: Configuring console
from /dev/ttys0 /dev/ttys0_console
    2008 Jan 17 10:58:35 dc3-test %VSHD-5-VSHD_SYSLOG_CONFIG_I: Configuring console
from /dev/ttys0 /dev/ttys0_console
    2008 Jan 17 10:59:00 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: error: setsockopt IP_TOS 16:
Invalid argument: - sshd[14484]
    2008 Jan 17 10:59:05 dc3-test %VSHD-5-VSHD_SYSLOG_CONFIG_I: Configuring console
from /dev/ttys0 /dev/ttys0_console
    2008 Jan 17 12:11:18 dc3-test %SYSMGR-STANDBY-5-SUBPROC_TERMINATED: "System Manager
(gsyc controller)" (PID 12000) has finished with error code
SYSMGR_EXITCODE_GSYNCFAILED_NONFATAL (12).
    2008 Jan 17 16:28:03 dc3-test %VSHD-5-VSHD_SYSLOG_CONFIG_I: Configuring console
from /dev/ttys0 /dev/ttys0_console
    2008 Jan 17 16:28:44 dc3-test %SYSMGR-3-BASIC_TRACE: core_copy: PID 2579 with
message Core not generated by system for eltm(0). WCOREDUMP(9) returned zero .
    2008 Jan 17 16:28:44 dc3-test %SYSMGR-2-SERVICE_CRASHED: Service "eltm" (PID 3504)
hasn't caught signal 9 (no core) .
    2008 Jan 17 16:29:08 dc3-test %SYSMGR-3-BASIC_TRACE: core_copy: PID 2579 with
message Core not generated by system for eltm(0). WCOREDUMP(9) returned zero.
    2008 Jan 17 16:29:08 dc3-test %SYSMGR-2-SERVICE_CRASHED: Service "eltm" (PID 23210)
hasn't caught signal 9 (no core) .
    2008 Jan 17 16:29:17 dc3-test %SYSMGR-3-BASIC_TRACE: core_copy: PID 2579 with
message Core not generated by system for eltm(0). WCOREDUMP(9) returned zero.
    2008 Jan 17 16:29:17 dc3-test %SYSMGR-2-SERVICE_CRASHED: Service "eltm" (PID 23294)
hasn't caught signal 9 (no core) .
    2008 Jan 17 16:29:25 dc3-test %SYSMGR-2-HASWITCHOVER_PRE_START: This supervisor is
becoming active (pre-start phase) .
    2008 Jan 17 16:29:25 dc3-test %SYSMGR-2-HASWITCHOVER_START: This supervisor is
becoming active.
    2008 Jan 17 16:29:26 dc3-test %USER-3-SYSTEM_MSG: crdcfg_get_srvinfo: mts_send
failed - device_test
    2008 Jan 17 16:29:27 dc3-test %NETSTACK-3-IP_UNK_MSG_MAJOR: netstack [4336]
Unrecognized message from MRIB. Major type 1807
    2008 Jan 17 16:29:27 dc3-test %IM-5-IM_INTF_STATE: mgmt0 is DOWN in vdc 1
    2008 Jan 17 16:29:27 dc3-test %IM-5-IM_INTF_STATE: mgmt0 is DOWN in vdc 2
    2008 Jan 17 16:29:27 dc3-test %IM-5-IM_INTF_STATE: mgmt0 is DOWN in vdc 3
    2008 Jan 17 16:29:27 dc3-test %IM-5-IM_INTF_STATE: mgmt0 is DOWN in vdc 4

```

```

2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %SYSMGR-2-SWITCHOVER_OVER: Switchover completed.
2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ntp:socket family : 2 -
ntpd[19045]
2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ntp:socket family : 10 -
ntpd[19045]
2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ntp:ipv6 only defined -
ntpd[19045]
2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ntp:bindv6 only defined -
ntpd[19045]
2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ntp:socket family : 2 -
ntpd[19045]
2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ntp:socket family : 0 -
ntpd[19045]
2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ntp:socket family : 0 -
ntpd[19045]
2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %NETSTACK-3-CLIENT_GET: netstack [4336] HA client
filter recovery failed (0)
2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %NETSTACK-3-CLIENT_GET: netstack [4336] HA client
filter recovery failed (0)
2008 Jan 17 16:29:29 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ssh disabled, removing -
dcos-xinetd[19072]
2008 Jan 17 16:29:29 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: telnet disabled, removing -
dcos-xinetd[19072]
2008 Jan 17 16:29:31 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: telnet disabled, removing -
dcos-xinetd[19073]
2008 Jan 17 16:29:32 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ssh disabled, removing -
dcos-xinetd[19079]
2008 Jan 17 16:29:32 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: telnet disabled, removing -
dcos-xinetd[19079]
2008 Jan 17 16:29:34 dc3-test %IM-5-IM_INTF_STATE: mgmt0 is UP in vdc 1
2008 Jan 17 16:29:34 dc3-test %IM-5-IM_INTF_STATE: mgmt0 is UP in vdc 2
2008 Jan 17 16:29:34 dc3-test %IM-5-IM_INTF_STATE: mgmt0 is UP in vdc 3
2008 Jan 17 16:29:34 dc3-test %IM-5-IM_INTF_STATE: mgmt0 is UP in vdc 4
2008 Jan 17 16:29:34 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ssh disabled, removing -
dcos-xinetd[19105]
2008 Jan 17 16:29:34 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: telnet disabled, removing -
dcos-xinetd[19105]
2008 Jan 17 16:29:35 dc3-test %PLATFORM-2-PS_AC_IN_MISSING: Power supply 2 present
but all AC inputs are not connected, ac-redundancy might be affected
2008 Jan 17 16:29:35 dc3-test %PLATFORM-2-PS_AC_IN_MISSING: Power supply 3 present
but all AC inputs are not connected, ac-redundancy might be affected
2008 Jan 17 16:29:38 dc3-test %CALLHOME-2-EVENT: SUP_FAILURE
2008 Jan 17 16:29:46 dc3-test vsh[19166]: CLIC-3-FAILED_EXEC: Can not exec command
<more> return code <14>
2008 Jan 17 16:30:24 dc3-test vsh[23810]: CLIC-3-FAILED_EXEC: Can not exec command
<more> return code <14>
2008 Jan 17 16:30:24 dc3-test vsh[23803]: CLIC-3-FAILED_EXEC: Can not exec command
<more> return code <14>
2008 Jan 17 16:30:24 dc3-test vsh[23818]: CLIC-3-FAILED_EXEC: Can not exec command
<more> return code <14>
2008 Jan 17 16:30:47 dc3-test %SYSMGR-3-BASIC_TRACE: core_copy: PID 2630 with
message Core not generated by system for eltm(0). WCOREDUMP(9) returned zero .
2008 Jan 17 16:30:47 dc3-test %SYSMGR-2-SERVICE_CRASHED: Service "eltm" (PID 4820)
hasn't caught signal 9 (no core) .
2008 Jan 17 16:31:02 dc3-test %SYSMGR-3-BASIC_TRACE: core_copy: PID 2630 with
message Core not generated by system for eltm(0). WCOREDUMP(9) returned zero .
2008 Jan 17 16:31:02 dc3-test %SYSMGR-2-SERVICE_CRASHED: Service "eltm" (PID 24239)
hasn't caught signal 9 (no core) .
2008 Jan 17 16:31:14 dc3-test %SYSMGR-3-BASIC_TRACE: core_copy: PID 2630 with
message Core not generated by system for eltm(0). WCOREDUMP(9) returned zero .
2008 Jan 17 16:31:14 dc3-test %SYSMGR-2-SERVICE_CRASHED: Service "eltm" (PID 24401)
hasn't caught signal 9 (no core) .
2008 Jan 17 16:31:23 dc3-test %CALLHOME-2-EVENT: SW_CRASH alert for service: eltm
2008 Jan 17 16:31:23 dc3-test %SYSMGR-3-BASIC_TRACE: core_copy: PID 2630 with
message Core not generated by system for eltm(0). WCOREDUMP(9) returned zero .
2008 Jan 17 16:31:23 dc3-test %SYSMGR-2-SERVICE_CRASHED: Service "eltm" (PID 24407)
hasn't caught signal 9 (no core) .
2008 Jan 17 16:31:24 dc3-test vsh[24532]: CLIC-3-FAILED_EXEC: Can not exec command
<more> return code <14>

```

■ その他の関連資料

```

2008 Jan 17 16:31:24 dc3-test vsh[24548]: CLIC-3-FAILED_EXEC: Can not exec command
<more> return code <14>
2008 Jan 17 16:31:24 dc3-test vsh[24535]: CLIC-3-FAILED_EXEC: Can not exec command
<more> return code <14>
2008 Jan 17 16:31:33 dc3-test %NETSTACK-3-INTERNAL_ERROR: netstack [4336] (null)
2008 Jan 17 16:31:33 dc3-test %ETHPORT-2-IF_SEQ_ERROR: Error (0x20) while
communicating with component MTS_SAP_ELTM opcode:MTS_OPC_ETHPM_PORT_PHY_CLEANUP
(for:RID_PORT: Ethernet3/1) end attachment start attachment
    name:show vdc membership
    type:text
    data:

    vdc_id: 1 vdc_name: dc3-test interfaces:
        Ethernet3/1           Ethernet3/2           Ethernet3/3
        Ethernet3/4           Ethernet3/5           Ethernet3/6
        Ethernet3/7           Ethernet3/8           Ethernet3/9
        Ethernet3/10          Ethernet3/11          Ethernet3/12
        Ethernet3/13          Ethernet3/14          Ethernet3/15
        Ethernet3/16          Ethernet3/17          Ethernet3/18
        Ethernet3/19          Ethernet3/20          Ethernet3/21
        Ethernet3/22          Ethernet3/23          Ethernet3/24
        Ethernet3/25          Ethernet3/26          Ethernet3/27
        Ethernet3/28          Ethernet3/29          Ethernet3/30
        Ethernet3/31          Ethernet3/32          Ethernet3/33
        Ethernet3/34          Ethernet3/35          Ethernet3/36
        Ethernet3/37          Ethernet3/38          Ethernet3/39
        Ethernet3/40          Ethernet3/41          Ethernet3/42
        Ethernet3/43          Ethernet3/44          Ethernet3/45
        Ethernet3/46          Ethernet3/47          Ethernet3/48

    vdc_id: 2 vdc_name: dc3-aaa interfaces:
    vdc_id: 3 vdc_name: dc3-rbac interfaces:
    vdc_id: 4 vdc_name: dc3-call interfaces:

end attachment
start attachment
    name:show vdc current-vdc
    type:text
    data:
        Current vdc is 1 - dc3-test
end attachment
start attachment
    name:show license usage
    type:text
    data:
        Feature           Ins  Lic  Status  Expiry  Date  Comments
                           Count
        -----
        LAN_ADVANCED_SERVICES_PKG  Yes   -   In use  Never   -
        LAN_ENTERPRISE_SERVICES_PKG Yes   -   Unused  Never   -
        -----
end attachment

```

syslog アラート通知の例 (XML フォーマット)

XML フォーマットを使用した syslog port アラート グループ通知の例を示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<soap-env:Envelope xmlns:soap-env="http://www.w3.org/2003/05/soap-envelope">
<soap-env:Header>
<aml-session:Session xmlns:aml-session="http://www.cisco.com/2004/01/aml-session"
soap-env:mustUnderstand="true"
soap-env:role="http://www.w3.org/2003/05/soap-envelope/role/next">
<aml-session:To>http://tools.cisco.com/neddce/services/DDCEService</aml-session:To>
<aml-session:Path>
<aml-session:Via>http://www.cisco.com/appliance/uri</aml-session:Via>
</aml-session:Path>
<aml-session:From>http://www.cisco.com/appliance/uri</aml-session:From>
<aml-session:MessageId>1004:TXX12345678:478F82E6</aml-session:MessageId>
</aml-session:Session>
</soap-env:Header>
<soap-env:Body>
<aml-block:Block xmlns:aml-block="http://www.cisco.com/2004/01/aml-block">
<aml-block:Header>
<aml-block:Type>http://www.cisco.com/2005/05/callhome/syslog</aml-block:Type>
<aml-block:CreationDate>2008-01-17 16:31:33 GMT+0000</aml-block:CreationDate>
<aml-block:Builder> <aml-block:Name>DC3</aml-block:Name>
<aml-block:Version>4.0</aml-block:Version>
</aml-block:Builder>
<aml-block:BlockGroup>
<aml-block:GroupId>1005:TXX12345678:478F82E6</aml-block:GroupId>
<aml-block:Number>0</aml-block:Number>
<aml-block:IsLast>true</aml-block:IsLast>
<aml-block:IsPrimary>true</aml-block:IsPrimary>
<aml-block:WaitForPrimary>false</aml-block:WaitForPrimary>
</aml-block:BlockGroup>
<aml-block:Severity>5</aml-block:Severity>
</aml-block:Header>
<aml-block:Content>
<ch:CallHome xmlns:ch="http://www.cisco.com/2005/05/callhome" version="1.0">
<ch:EventTime>2008-01-17 16:31:33 GMT+0000</ch:EventTime>
<ch:MessageDescription>SYSLOG_ALERT 2008 Jan 17 16:31:33 dc3-test
%ETHPORT-2-IF_SEQ_ERROR: Error (0x20) while communicating with component MTS_SAP_ELTM
opcode:MTS_OPC_ETHPM_PORT_PHY_CLEANUP (for:RID_PORT: Ethernet3/1)
```

```

</ch:MessageDescription> <ch:Event> <ch>Type>syslog</ch>Type>
<ch:SubType></ch:SubType> <ch:Brand>Cisco</ch:Brand> <ch:Series>Nexus7000</ch:Series>
</ch:Event> <ch:CustomerData> <ch:UserData> <ch>Email>contact@example.com</ch>Email>
</ch:UserData>
<ch:ContractData>
<ch:DeviceId>N7K-C7010@TXX12345678</ch:DeviceId>
</ch:ContractData>
<ch:SystemInfo>
<ch>Name>dc3-test</ch>Name>
<ch>Contact>Jay Tester</ch>Contact>
<ch>ContactEmail>contact@example.com</ch>ContactEmail>
<ch>ContactPhoneNumber>+91-80-1234-5678</ch>ContactPhoneNumber>
<ch>StreetAddress>#1, Any Street</ch>StreetAddress> </ch:SystemInfo>
</ch:CustomerData> <ch:Device> <rme:Chassis xmlns:rme="http://www.cisco.com/rme/4.0">
<rme:Model>N7K-C7010</rme:Model>
<rme:HardwareVersion>0.405</rme:HardwareVersion>
<rme:SerialNumber>TXX12345678</rme:SerialNumber>
</rme:Chassis>
</ch:Device>
</ch:CallHome>
</aml-block:Content>
<aml-block:Attachments>
<aml-block:Attachment type="inline">
<aml-block:Name>show logging logfile | tail -n 200</aml-block:Name> <aml-block>Data
encoding="plain">
<![CDATA[2008 Jan 17 10:57:51 dc3-test %SYSLOG-1-SYSTEM_MSG : Logging logfile
(messages) cleared by user
2008 Jan 17 10:57:53 dc3-test %VSHD-5-VSHD_SYSLOG_CONFIG_I: Configuring console from
/dev/ttys0 /dev/ttys0_console
2008 Jan 17 10:58:35 dc3-test %VSHD-5-VSHD_SYSLOG_CONFIG_I: Configuring console from
/dev/ttys0 /dev/ttys0_console
2008 Jan 17 10:59:00 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: error: setsockopt IP_TOS 16:
Invalid argument: - sshd[14484]
2008 Jan 17 10:59:05 dc3-test %VSHD-5-VSHD_SYSLOG_CONFIG_I: Configuring console from
/dev/ttys0 /dev/ttys0_console
2008 Jan 17 12:11:18 dc3-test %SYSMGR-STANDBY-5-SUBPROC_TERMINATED: \"System Manager
(gsyc controller)\" (PID 12000) has finished with error code
SYSMGR_EXITCODE_GSYNCFAILED_NONFATAL (12).
2008 Jan 17 16:28:03 dc3-test %VSHD-5-VSHD_SYSLOG_CONFIG_I: Configuring console from
/dev/ttys0 /dev/ttys0_console
2008 Jan 17 16:28:44 dc3-test %SYSMGR-3-BASIC_TRACE: core_copy: PID 2579 with message
Core not generated by system for eltm(0). WCOREDUMP(9) returned zero .
2008 Jan 17 16:28:44 dc3-test %SYSMGR-2-SERVICE_CRASHED: Service \"eltm\" (PID 3504)
hasn't caught signal 9 (no core).
2008 Jan 17 16:29:08 dc3-test %SYSMGR-3-BASIC_TRACE: core_copy: PID 2579 with message
Core not generated by system for eltm(0). WCOREDUMP(9) returned zero .
2008 Jan 17 16:29:08 dc3-test %SYSMGR-2-SERVICE_CRASHED: Service \"eltm\" (PID 23210)
hasn't caught signal 9 (no core).
2008 Jan 17 16:29:17 dc3-test %SYSMGR-3-BASIC_TRACE: core_copy: PID 2579 with message
Core not generated by system for eltm(0). WCOREDUMP(9) returned zero .
2008 Jan 17 16:29:17 dc3-test %SYSMGR-2-SERVICE_CRASHED: Service \"eltm\" (PID 23294)
hasn't caught signal 9 (no core).
2008 Jan 17 16:29:25 dc3-test %SYSMGR-2-HASWITCHOVER_PRE_START: This supervisor is
becoming active (pre-start phase).
2008 Jan 17 16:29:25 dc3-test %SYSMGR-2-HASWITCHOVER_START: This supervisor is
becoming active.
2008 Jan 17 16:29:26 dc3-test %USER-3-SYSTEM_MSG: crdcfg_get_srvinfo: mts_send failed
- device_test
2008 Jan 17 16:29:27 dc3-test %NETSTACK-3-IP_UNK_MSG_MAJOR: netstack [4336]
Unrecognized message from MRIB. Major type 1807
2008 Jan 17 16:29:27 dc3-test %IM-5-IM_INTF_STATE: mgmt0 is DOWN in vdc 1
2008 Jan 17 16:29:27 dc3-test %IM-5-IM_INTF_STATE: mgmt0 is DOWN in vdc 2
2008 Jan 17 16:29:27 dc3-test %IM-5-IM_INTF_STATE: mgmt0 is DOWN in vdc 3
2008 Jan 17 16:29:27 dc3-test %IM-5-IM_INTF_STATE: mgmt0 is DOWN in vdc 4
2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %SYSMGR-2-SWITCHOVER_OVER: Switchover completed.
2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ntp:socket family : 2 -
ntpd[19045]
2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ntp:socket family : 10 -
ntpd[19045]

```

```

2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ntp:ipv6 only defined -
ntp[19045]
2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ntp:bindv6 only defined -
ntp[19045]
2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ntp:socket family : 2 -
ntp[19045]
2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ntp:socket family : 0 -
ntp[19045]
2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ntp:socket family : 0 -
ntp[19045]
2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %NETSTACK-3-CLIENT_GET: netstack [4336] HA client
filter recovery failed (0)
2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %NETSTACK-3-CLIENT_GET: netstack [4336] HA client
filter recovery failed (0)
2008 Jan 17 16:29:29 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ssh disabled, removing -
dcos-xinetd[19072]
2008 Jan 17 16:29:29 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: telnet disabled, removing -
dcos-xinetd[19072]
2008 Jan 17 16:29:31 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: telnet disabled, removing -
dcos-xinetd[19073]
2008 Jan 17 16:29:32 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ssh disabled, removing -
dcos-xinetd[19079]
2008 Jan 17 16:29:32 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: telnet disabled, removing -
dcos-xinetd[19079]
2008 Jan 17 16:29:34 dc3-test %IM-5-IM_INTF_STATE: mgmt0 is UP in vdc 1
2008 Jan 17 16:29:34 dc3-test %IM-5-IM_INTF_STATE: mgmt0 is UP in vdc 2
2008 Jan 17 16:29:34 dc3-test %IM-5-IM_INTF_STATE: mgmt0 is UP in vdc 3
2008 Jan 17 16:29:34 dc3-test %IM-5-IM_INTF_STATE: mgmt0 is UP in vdc 4
2008 Jan 17 16:29:34 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ssh disabled, removing -
dcos-xinetd[19105]
2008 Jan 17 16:29:34 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: telnet disabled, removing -
dcos-xinetd[19105]
2008 Jan 17 16:29:35 dc3-test %PLATFORM-2-PS_AC_IN_MISSING: Power supply 2 present but
all AC inputs are not connected, ac-redundancy might be affected
2008 Jan 17 16:29:35 dc3-test %PLATFORM-2-PS_AC_IN_MISSING: Power supply 3 present but
all AC inputs are not connected, ac-redundancy might be affected
2008 Jan 17 16:29:38 dc3-test %CALLHOME-2-EVENT: SUP_FAILURE
2008 Jan 17 16:29:46 dc3-test vsh[19166]: CLIC-3-FAILED_EXEC: Can not exec command
<more>; return code <14>;
2008 Jan 17 16:30:24 dc3-test vsh[23810]: CLIC-3-FAILED_EXEC: Can not exec command
<more>; return code <14>;
2008 Jan 17 16:30:24 dc3-test vsh[23803]: CLIC-3-FAILED_EXEC: Can not exec command
<more>; return code <14>;
2008 Jan 17 16:30:24 dc3-test vsh[23818]: CLIC-3-FAILED_EXEC: Can not exec command
<more>; return code <14>;
2008 Jan 17 16:30:47 dc3-test %SYSMGR-3-BASIC_TRACE: core_copy: PID 2630 with message
Core not generated by system for eltm(0). WCOREDUMP(9) returned zero .
2008 Jan 17 16:30:47 dc3-test %SYSMGR-2-SERVICE_CRASHED: Service \"eltm\" (PID 4820)
hasn't caught signal 9 (no core).
2008 Jan 17 16:31:02 dc3-test %SYSMGR-3-BASIC_TRACE: core_copy: PID 2630 with message
Core not generated by system for eltm(0). WCOREDUMP(9) returned zero .
2008 Jan 17 16:31:02 dc3-test %SYSMGR-2-SERVICE_CRASHED: Service \"eltm\" (PID 24239)
hasn't caught signal 9 (no core).
2008 Jan 17 16:31:14 dc3-test %SYSMGR-3-BASIC_TRACE: core_copy: PID 2630 with message
Core not generated by system for eltm(0). WCOREDUMP(9) returned zero .
2008 Jan 17 16:31:14 dc3-test %SYSMGR-2-SERVICE_CRASHED: Service \"eltm\" (PID 24401)
hasn't caught signal 9 (no core).
2008 Jan 17 16:31:23 dc3-test %CALLHOME-2-EVENT: SW_CRASH alert for service: eltm
2008 Jan 17 16:31:23 dc3-test %SYSMGR-3-BASIC_TRACE: core_copy: PID 2630 with message
Core not generated by system for eltm(0). WCOREDUMP(9) returned zero .
2008 Jan 17 16:31:23 dc3-test %SYSMGR-2-SERVICE_CRASHED: Service \"eltm\" (PID 24407)
hasn't caught signal 9 (no core).
2008 Jan 17 16:31:24 dc3-test vsh[24532]: CLIC-3-FAILED_EXEC: Can not exec command
<more>; return code <14>;
2008 Jan 17 16:31:24 dc3-test vsh[24548]: CLIC-3-FAILED_EXEC: Can not exec command
<more>; return code <14>;
2008 Jan 17 16:31:24 dc3-test vsh[24535]: CLIC-3-FAILED_EXEC: Can not exec command
<more>; return code <14>;
2008 Jan 17 16:31:33 dc3-test %NETSTACK-3-INTERNAL_ERROR: netstack [4336] (null)

```

■ その他の関連資料

```

2008 Jan 17 16:31:33 dc3-test %ETHPORT-2-IF_SEQ_ERROR: Error (0x20) while
communicating with component MTS_SAP_ELTM opcode:MTS_OPC_ETHPM_PORT_PHY_CLEANUP
(for:RID_PORT: Ethernet3/1) ]]> </aml-block:Data> </aml-block:Attachment>
<aml-block:Attachment type="inline"> <aml-block:Name>show vdc
membership</aml-block:Name> <aml-block:Data encoding="plain"> <! [CDATA[
vdc_id: 1 vdc_name: dc3-test interfaces:
  Ethernet3/1      Ethernet3/2      Ethernet3/3
  Ethernet3/4      Ethernet3/5      Ethernet3/6
  Ethernet3/7      Ethernet3/8      Ethernet3/9
  Ethernet3/10     Ethernet3/11     Ethernet3/12
  Ethernet3/13     Ethernet3/14     Ethernet3/15
  Ethernet3/16     Ethernet3/17     Ethernet3/18
  Ethernet3/19     Ethernet3/20     Ethernet3/21
  Ethernet3/22     Ethernet3/23     Ethernet3/24
  Ethernet3/25     Ethernet3/26     Ethernet3/27
  Ethernet3/28     Ethernet3/29     Ethernet3/30
  Ethernet3/31     Ethernet3/32     Ethernet3/33
  Ethernet3/34     Ethernet3/35     Ethernet3/36
  Ethernet3/37     Ethernet3/38     Ethernet3/39
  Ethernet3/40     Ethernet3/41     Ethernet3/42
  Ethernet3/43     Ethernet3/44     Ethernet3/45
  Ethernet3/46     Ethernet3/47     Ethernet3/48

vdc_id: 2 vdc_name: dc3-aaa interfaces:

vdc_id: 3 vdc_name: dc3-rbac interfaces:

vdc_id: 4 vdc_name: dc3-call interfaces:

]]>
</aml-block:Data>
</aml-block:Attachment>
<aml-block:Attachment type="inline">
<aml-block:Name>show vdc current-vdc</aml-block:Name> <aml-block:Data
encoding="plain"> <! [CDATA[Current vdc is 1 - dc3-test ]]> </aml-block:Data>
</aml-block:Attachment> <aml-block:Attachment type="inline"> <aml-block:Name>show
license usage</aml-block:Name> <aml-block:Data encoding="plain">
<! [CDATA[Feature           Ins  Lic  Status  Expiry  Date  Comments
Count
-----
LAN_ADVANCED_SERVICES_PKG  Yes   -   In use  Never   -
LAN_ENTERPRISE_SERVICES_PKG Yes   -   Unused  Never   -
-----
]]>
</aml-block:Data>
</aml-block:Attachment>
</aml-block:Attachments>
</aml-block:Block>
</soap-env:Body>
</soap-env:Envelope>

```

関連資料

関連項目	マニュアル名
Call Home CLI コマンド	『Cisco NX-OS System Management Command Line Reference』
VDC および VRF	『Cisco NX-OS Virtual Device Contexts Configuration Guide』

規格

規格	タイトル
この機能がサポートする新しい規格または変更された規格はありません。また、この機能で変更された既存規格のサポートはありません。	—

MIB

MIB	MIB のリンク
• CISCO-CALLHOME-MIB	MIB を見つけてダウンロードするには、次の URL を参照してください。 http://www.cisco.com/public/sw-center/netmgmt/cmtk/mibs.shtml

■ 他の関連資料